

資料

読書科の教材構成

甲 斐 雄一郎

凡例

1. 本資料は小学校ノ学科及其程度下（明治19～23年）における読書科の教科イメージを明らかにすることを目的として、当時刊行された教科書について、各教材を3に示す内容によって分類したものである。
2. 以下の八種の教科書（「尋常小学読本」「高等小学読本」各四種）を調査対象とした。
尋常小学読本（左頁に掲載）
新保磐次編『日本読本』6冊 明治19年 金港堂刊
辻敬之・西村正三郎共編『尋常小学読本』8冊 明治20年 普及舎刊
文部省編『尋常小学読本』7冊 明治20年 文部省刊
東京府庁編『小学読本』8冊 明治21年 文海堂、文玉圃、文学社、中央堂刊
高等小学読本（右頁に掲載）
内田嘉一編『増訂小学読本高等科』8冊 明治19年 金港堂刊
池永厚・西村正三郎共編『高等小学読本』8冊 明治20年 普及舎刊
三宅米吉・新保磐次共編『高等日本読本』8冊 明治21年 金港堂刊
文部省編『高等小学読本』7冊 明治21年 文部省刊
3. 各教材は以下の分類にしたがって配列した。
修身（修身／国民）、地理（入門／地形／交通／日本／世界）、歴史、理科（入門／化学／金石／植物／生理／地文／動物／物理）、公民、実業、家政、手紙・言語、その他（説話／生活、自然／雑）
4. 入門期を脱した巻以降を調査対象とし、原則として一つの教材は一つの分類項目に入れた。ただし複数の内容を含む教材の場合は、ある分類に位置づけた後にかっこ内に示した（新保編『日本読本』に限る）。
5. 各教材は題目とともに巻数と課番号とを示した。すなわち「123」は、第一巻の第二十三課であることを示す。ただし東京府庁編『尋常小学読本』は巻三まで、辻・西村共編『尋常小学読本』はすべてにわたって題目が示されていないため調査者が補った。また新保編『日本読本』は、課番号が示されていないのでこれも調査者が補った。

なお、本調査は平成9年度筑波大学学内プロジェクト研究「『尋常小学読本』『高等小学読本』における教材選択の根拠」に基づく研究成果の一部である。

	新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文部省編	東京府庁編
修身	修身			
	203 少カキ時	301 学問	211 はなれ馬	309 うぐひす
	204 学校	304 よき道	212 心はたけく	310 ばらに実ならず
	222 少しツツ	307 家族	216 子をあいする猫の話	312 燕の雛
	302 猫ガ来ル	309 目、耳、口	219 欲ふかき犬の話	314 砂遊び2
	413 遊惰	323 読み書き算	221 新聞売	315 ありの行列
	417 馬ヨリ落ツ	328 時計	226 たかね	316 とび
	419 宝	402 蕾	301 正直もの	317 学問
	423 樫ト葎	406 掃除	302 まこと	318 狼と少年
	429 正直ノ報イ	407 朝	310 めくら	319 隣の栗
	502 犬ト猫	411 蟬蛙	311 塙保己一の話	321 読書
	508 朝起キト朝寝	414 火の用心	316 ほねをしみせし馬の話	322 一足づつ
	509 小ハ大ヲ成ス	415 朋友睦まじくあれ	317 正雄の正直	323 かかし
	527 温和	419 四季の移ろい	321 酒井忠勝の話	324 修身教え歌
	528 忠義ナル犬	422 猿の芸	324 桑つみ女	325 鳥と狐
	605 雀ト蝶	425 一日の過ごし方	326 行成と実方との話	326 儉約
	606 白井栗太郎	507 犬の忠義	327 かうまんなる男	327 雪の中
	613 勇氣	509 勉強の苦難	328 虎と狐との話	328 山火事
	616 兄弟ノ情	516 行成と実方	330 燕の巣をうばひし雀の話	330 学問
	617 夢野氏ノ後悔	612 源義家	401 お竹の老人を助けし話	331 正直な商人
		813 犬の忠義	403 学のすすめ	332 礼
		814 借陰先生	404 忠次郎の話	401 兄弟望を話す
			405 友のえらび方	402 無益の折衝をすな
			409 信高の妻の勇氣	405 子守を能くせよ
			410 千代松の話	407 梅の早咲き
			412 烏蛤を食ふ話	408 子猿親猿を温む
			417 孝行なる盲人	412 路草を食ふな
			418 子鼠とおや鼠	416 山崎闇斎無芸を悲しむ
			421 義家の学問に志したる話	417 悪しき事は隠されず
			423 鹿の水鏡	419 廃り物を用に立つる
			501 学問の益	420 時間を過ふな
			502 たのしわれ	421 丁稚の正直
			504 狐と蟹とのかけくらべ	422 貧しき人を怒む
			506 腐りたる柿	424 競争
			507 翼の折れたる雀	426 無益の争ひはせず
			508 小児の悪戯	427 請合ひごとは負かず1
			518 塞翁が馬	428 請合ひごとは負かず2
			519 深切の却て不深切となりたる話	429 忠孝両ながら全し1
			520 深切の却て不深切となりたる話	430 忠孝両ながら全し2
			521 フリードリヒ大王の話	503 平成の心懸け
			526 諺	504 塩原多助廃物を貯ふ
			527 不正直の結果	505 勉学坐席をくぼむ
			529 勉強の少年	519 助くるものは又助けらる
			530 諺	520 約束を守れ
			603 立身の宴会	521 季札宝剣を墓に懸く
			604 あまだれ石を穿つ	522 河瀬はる婦道を尽す
			605 らんどしーるの話	523 老馬無慈悲を訴ふ
			610 鎌倉権五郎景正の話	525 三女の友愛
			615 あるふれつど王の話	526 稲荷明神は狐に非ず
			617 野中兼山のみやげ	604 毛利元就遺訓の話
			623 べべん王の話	613 賢者と盲人との河渡り
			703 大椿の話	614 貞婦さよの話
			704 蛍雪の功	618 節儉者の話
			705 森蘭丸の話	619 懶惰者の夢
			706 傲慢なる狼	703 女兒の勉学
			711 立花道雪の話	705 武士の即智
			713 蟻と鳩との話	708 童子の確志
			716 馬を献じて燕膏を得たり	712 奥貫友山窮民を救ふ

内田嘉一編	池永厚/西村正三郎編	三宅米吉/新保磐次編	文部省 高等小学読本
101 父母には孝を尽くせ	103 天ハ常二人ニ幸セリ	103 烏ト狐	102 知識ヲ得ルノ方法
102 父母には孝を尽くせ 其二	105 鴻ハ損を招く	104 鈴木宇右衛門ノ一家	103 子鹿ノ話
103 紅菌小童を欺く	107 義犬其主ノ死ヲ救フ	107 柳ト櫻	107 吾家
104 元就箭を折らしめて教訓を垂る	109 都会に住ムモノハ田舎を知らず	108 孔子	112 閨ノ板戸
108 覆水再び滯らず	114 祖先ノ微賤ナルハ 恥ゾルニ 足ラズ	109 閨楨	115 大江某ノ話
109 志は堅からんことを欲す	118 貝原益軒の略伝	110 貪婪ニシテ 身ヲ亡ボスノ 喻ヘ	120 榮ゆく御代
110 爾に出でたる者は爾に反る	119 早起	114 急ガズバ	135 書籍
111 一夫仁を行うて衆人之人に化す(1)	120 童子訓	115 狐	207 怨ニ報ユルニ徳ヲ以テス
112 一夫仁を行うて衆人之人に化す(2)	121 宮崎安貞の略伝	119 珍シキ道行	213 上毛野形名ノ妻
113 叔敖兩頭の蛇を殺す	128 仁の説 鳩翁道話	121 出来心	227 恩義ヲ知りタル罪人
114 過を隠すは其罪を重ぬるのみ	202 軽躁ナル士人ノ失敗	129 六憎	301 親切ノ返報
115 松下禪尼破障を補ふ	204 松平信綱養中ニ在リテ辞ヲ改メズ	202 狐ト狼	332 老農ノ談話
116 今日の一飯他日の千金に勝る	205 阿部忠秋其主ノ自負心ヲ挫ク	203 偽ルコト勿レ	333 小枝
117 小害を防がざれば大害至る	209 農夫金言ヲ守リ富ヲ致ス	207 孝子万吉	401 狩野元信ノ話
120 怨に報ゆるに徳を以てす	210 百金の教訓	208 烏	402 勉強
121 恩を受けては 必ず忘ること勿れ	212 童子狼を弄ぶ	211 目覚マシ時計	403 勸学の歌
122 失敗を忍ばざれば大事成らず	214 一杯の儉約	216 ヒウ、ミルレル 酒ヲ止ムルコト	410 知識ノ話
123 韓信胯下より出づ	215 自暴自棄	217 森蘭丸	425 節儉
128 光陰は至重の宝	216 孝義訓	218 松平信綱	503 殊勝ナル小童ノ成長シテ
129 小童長堤の壊るるを防ぐ	217 孝女妙沖	220 約束ヲ守ル	504 殊勝ナル人ト為リタル話二
132 盛年再び来らず	219 拿破侖帝ト工人トノ話	225 みみづくノ文	511 苦学ノ結果一
133 兩猫食を争ひて一猿に獲らる	222 改過	226 心短キ人ノ戒メ	512 苦学ノ結果二
134 朋友の故事	223 刺激は幸福の母なり	228 べるなると、ぱりつーい	519 子ヲ奪ハレタル話
135 熊を獲ずして熊皮を典売せざれば	224 狼ヲ殺シテ父ノ讎ヲ復ス	301 二童子ノ商ヒ	523 貧人及富人一
202 財を聚むるに道あり	303 犬の工夫	306 老僧ノ接木	524 貧人及富人二
203 ト伝壯士を孤島に竊む	306 柴蝶の話	307 暇	534 時間ヲ守ル可シ
204 小女父の旧帽を取つ(1)	307 義士ノ復讐(上)	308 習慣ハ始メテ積ムベシ	601 家僕ノ忠愛
205 小女父の旧帽を取つ(2)	308 義士ノ復讐(中)	309 新井白石ノ生ヒ立チ	633 儉約ノ戒
207 愚公山を壊つ	309 義士ノ復讐(下)	311 儉約ト吝嗇	730 貧困ノ原因
209 貧富の故事	317 ゴールド氏ノ自伝(上)	312 二種ノ人品	
210 尺蠖は屈て後伸ぶ	318 ゴールド氏ノ自伝(下)	404 手折リシ枝ニ吹ク春風	
211 君子は貧を患へず	319 大功業ヲ立ツル人ハ粗心ナラズ	405 かんんにノ字数	
214 甘を分たざれば苦を共にせず	321 字を知らぬ不自由	412 覚悟	
216 忠秋鶴を放つ	322 借陰	414 我が身ヲ省ヨ	
218 老僧木を接ぐ	323 鼠と墓	418 少時ヲ以テ将来ヲトシ難シ	
219 童子釘痕の消えざるを悲む	405 先考の教訓	502 ロノ出シ入レ積ムベシ	
220 人を救はんとて却て己を救ふ	406 先妣の事を記す	508 世ハ海ノ喩ヘ	
222 漫に人を疑ふこと勿れ(1)	408 フランクリン幼時の一話	512 天保饑饉ノ論達	
223 漫に人を疑ふこと勿れ(2)	411 姉妹の心掛(1)	517 人ヲ勝ル勿カレ	
224 高名は勉強より成る	412 姉妹の心掛(2)	601 灯台モト暗シ	
226 迂翁驢馬を販く	414 誠ヲ子孫ニ遺スノ書	603 恭敬、和楽	
229 今日怠て明日ありと云ふ勿れ	420 孝子二郎伝	609 世ノ習ヒ	
234 悪を行へば悪報あり	503 艱難中ノ真情	617 鳥ノ鳴ク音	
235 板倉勝重内謁を塞ぐ	507 鉄坊主ノ伝	707 馬琴著作ニ勞セシ始末	
301 疑心暗鬼を生ず	509 家族の心得	708 己ガ物学ビノ有リシ様	
303 害を受けば其人の五体を碎け	510 女の予讓	711 酒狂	
304 痴鶉の喩言	515 鶏犬を求めて心を求めず		
305 読書の徳	518 蜂ノ刺		
310 兄弟妻を譲る	522 小吏ノ滑稽能ク訟ヲ折ク		
311 兎鷄母訓に背く	525 馬場信房両士を敬す		
314 遠に求めんとせば 近よりせよ	526 客に接する心得		
323 魯帝民情を探る(1)	527 人各々得失ある事		
324 魯帝民情を探る(2)	528 勤儉ナル人能ク事業ヲ成ス		
328 児童志を言ふ(1)	605 演劇に感じて品行を改む		
329 児童志を言ふ(2)	607 富士山ノ因ニ題ス		
404 童子銭を失ふ	611 反対なる兄弟		
405 何をか盗と謂ふ	614 藩籬ヲ撥グ者ノ伝		

		新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文部省編	東京府庁編
修身	修身			724 塚原卜伝の話 731 あふげばたふとし	714 兄弟争ひを止む 716 谷村計介の忠勇 717 谷村計介の忠勇 720 家産の分配 802 三女の孝順 804 兄弟の推譲
国民	618 紀元節, 天長節 619 祭日, 祝日 623 三種ノ神器	417 兵隊 424 天長説 810 三種の神器	220 兵士 325 招魂社 429 神武天皇 430 紀元節の歌 431 紀元節の歌 続き	333 観兵式 409 虎の餅食 502 靖国神社 515 喜びて兵士となれ 701 三種の神宝	

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
408 孝を尽すは人生の幸福	618 私欲ノ問答		
409 儉と吝との別	623 乳母の忠節		
417 否の一字は護身の利剣	625 孝子狂犬を撲殺す		
424 他力に依る者は必ず奴と為る	706 牝熊		
425 大言倨傲を慎め	709 人の労働		
430 児童鳥の勤勉を慕ふ	715 愛子の藪入		
431 朋友は緩急相救へ	717 日諭		
504 閣龍鶏卵を立つ	719 二獅子		
505 飢ゑたる者に粗食なし	802 慢心の童子		
508 醜菓の中に金環あり	806 義鼠		
510 器物の整頓は親と便とを助く	808 貴公子ノ悪戯		
512 耳学笑を招ぐ	810 医師ノ配剤頑姑悍婦ヲ治療ス		
515 酒を辞して童子将校に愛せらる	815 將軍呉六一		
516 頭を下ぐるは修身の一端	824 義犬		
517 禽獸に教ふるも 少時を最とす	826 巧者王承福伝		
518 兄弟画像を射て公判を仰ぐ	828 道德		
519 蜘蛛も亦人に益あり	831 奢を戒むる談話		
520 尋思の功用			
522 少壮努力せよ			
523 工人正直孤女を教ふ			
524 麩包を割て黄金を得			
525 過ぎたるは猶ほ及ばざるが如し			
526 無情の姪遺産を得ず			
527 君子は人の己を誇るを喜ぶ			
528 予讓讐を報ゆ			
529 信固ければ 巨砲も砕くを得ず			
532 宿瘤桑を採て齋王に聘せらる			
601 慢偽妬疑の心を去れ			
609 二童物を販く			
612 一家の親睦			
613 物として用無きは莫し			
614 両童紅と黒とを論ず			
619 青砥左衛門か事を紀す			
620 腐儒水中に溺る			
622 議論は着実を尚ぶ			
623 巨木も小芽より長ず			
624 士人宝刀を伝ふ			
626 懶惰は身を亡ぼすの基			
629 雉母雛を將ゐる詩			
701 蠅児母訓を背く			
703 至徳賊を化す			
708 人生徳を積まんを要す			
713 人生勤儉ならんを要す			
722 水戸景山公の逸事			
724 絃囊問答			
802 霏々として初て雪ふる			
808 種樹郭橐駝の伝			
817 事皆中庸を得んを要す			
823 行状一言(1)			
824 行状一言(2)			
826 精神妙用の論(1)			
827 精神妙用の論(2)			
	115 国体 609 天津日嗣の歌 816 籙葉の歌	807 軍人への五箇条ノ勅諭	201 皇統一系 202 神器国旗 309 太平ノ曲 428 皇国ノ民

		新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文 部 省 編	東 京 府 庁 編
	国民			602 日の旗 702 祝へ我が国を 729 君が御代 730 国王の巡幸	
地理	入門	407 地図	306 四方 318 方角	227 方角 425 絵と図 426 公園の地図	301 方角 303 南と北
	地形	310 庭 406 島, 陸, 岸		606 水の周遊一 607 水の周遊二	
	交通	202 商船 425 入船	324 荷車と人力車 412 乗り物の昔と今 418 船の種類		
	日本	221 京 227 富士山 323 帝国 408 日本地図 409 日本地図ノ二 424 港, 三府, 五港 517 旅行 519 旅行ノ二 521 旅行ノ三 525 旅行ノ四	327 一畿八道八十五国 421 富士山と琵琶湖 508 開港場 513 五十鈴川と二見浦 602 東京 603 京都 615 大和国 704 大坂 705 鎌倉 802 東照宮	213 富士山 701 我が国 722 鳥津家久琉球を取る	509 水道 528 恵みの露 620 三府 621 五港 623 江戸城 722 富士山 723 大日本帝国 805 日光山
	世界	607 西へ, 西へ	710 龍動／巴黎 804 支那 地理 426 地球	516 家 727 地球	615 地球の五帯

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
105 村童地理を問ふ 106 村童地理を問ふ 其二 107 村童地理を問ふ 其三 320 何をか地理学と曰ふ			
	721 雨滴土柱ヲ作ル 724 鍾乳石 728 溪谷ノ成ル所以		122 海岸 222 山ト河トノ話
309 船舶貨物を運す 317 汽車			
	101 大日本帝国(1) 104 北海道の土人 110 東京 地理 111 上野公園 112 東京ノ水道 113 小笠原島 123 富士山 124 日本三景 221 琉球那覇港の景況 722 五家ノ莊	204 親知ラズ子知ラズ 317 交通ノ便 318 能因法師ノ歌 604 伊豆ノ海(1) 605 伊豆ノ海(2) 614 伊勢国	101 吾国 104 都会 105 東京 109 京都 117 大坂 123 横浜 132 長崎一 133 長崎二 134 長崎三 203 兵庫神戸 208 新潟 214 函館 218 金沢 225 名古屋 229 仙台 311 広島 318 和歌山 325 鹿児島
308 教師至大ノ球を説く 321 黒奴の本国 621 人種の大別 625 衣食の需め各国同じからず	620 倫敦ノ小童(1) 621 倫敦ノ小童(2)	128 ころんばす 221 赤色人種 411 世界一周ノ話(1) 413 世界一周ノ話(2) 416 世界一周ノ話(3) 503 世界一周ノ話(4) 506 世界一周ノ話(5) 510 世界一周ノ話(6) 513 世界一周ノ話(7)	407 条約国 408 北京 412 亜米利加發見 413 亜米利加發見(2) 416 桑方四斯都哥 429 紐育 509 波士敦 518 費拉特費 529 合衆国ノ鉱業 608 倫敦 617 英吉利ノ商業 618 英吉利ノ商業 621 巴黎 625 仏蘭西ノ工業 631 伯林 706 維也納 712 羅馬 713 羅馬 718 聖彼得堡 721 世界ノ周航 722 世界ノ周航 727 世界ノ周航統 728 世界ノ周航統

	新保 啓次編	辻敬之／西村正三郎編	文 部 省 編	東 京 府 庁 編
歴 史	430 昔話シ 431 楠木正成 432 楠公, 楠母, 小楠公 518 笠置山 520 義経 522 菅公 523 甲越ノ戦 608 太閤 609 神功皇后, 八幡太神宮 610 仁徳天皇 611 藤原鎌足 621 年号 622 日本国ノ昔話シ	514 足利・徳川時代の衣装 519 仁徳天皇・醍醐天皇 606 菅原道真 608 楠正成と楠正行 613 古代の風俗 614 神武天皇 619 和気清麻呂 701 天智天皇 706 源平二氏 709 後醍醐天皇 803 徳川氏	307 道長の話 1 308 道長の話 2 503 菅原道真 509 日本武尊 515 仁徳天皇 525 醍醐天皇 614 菟道稚郎子の話 618 源平あそび 619 平清盛 621 鎌倉 625 後醍醐天皇 626 楠木正成一 627 楠木正成二 631 楠木正行一 632 楠木正行二 707 豊臣秀吉一 708 豊臣秀吉二 715 豊臣秀吉三 718 徳川家康 719 家康遺訓 720 江戸城 726 山田長正の話 728 明治維新	415 雪中の旅 501 焼津野の向ひ火 514 蔚山の籠城 527 正一位湊川神社 601 建国 1 602 建国 2 606 三韓征伐 608 元の寇 611 藤田東湖志氣を励す 622 武将 702 逆臣必滅 707 村上義光の忠死 710 一ノ谷の合戦 801 児島高德詩を桜樹に書す 807 上杉謙信鑿を甲信に輸りし事 809 平重盛 811 抄紙の發明 815 西洋形造船の率先者 817 桶狭の合戦 818 織田信長皇室を尊ぶ 823 佐藤信淵 824 徳川光圀

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保繁次編	文部省 高等小学読本
208 義経景時と逆鱗を論ず	102 大日本帝国(2)	316 熊谷父子橋桁ヲ渡ル	108 日本古代ノ略説
501 秀吉朝鮮を伐つ(1)	108 鳥羽伏見の戦	319 角倉了以	110 日本武尊ノ武勇
502 秀吉朝鮮を伐つ(2)	116 楠木正成	401 源平ノ三烈士	113 日本武尊ノ東夷征伐
503 秀吉朝鮮を伐つ(3)	117 西南戦争	402 安藤聖秀	118 上古ノ人民
605 阿新讐を報ゆ	127 ノルマントン号の沈没	403 小宮山内膳	119 上古ノ人民
606 阿新讐を報ゆ 其二	201 徳川時代	406 阿新殿 第一	125 三韓ノ降伏
611 義経一谷を襲ふ	206 林子平	407 阿新殿 第二	130 文学ノ渡来
615 鉄砲始て我邦に入る	229 高山正之	408 阿新殿 第三	205 仏ノ渡来
702 五言の詩始て起る	230 遊事ノ沿革	415 米国ノ独立	221 遣唐使
710 赤穂義士の事を紀す(1)	301 徳川時代の諸大名	417 義経ノ都出デ	228 留学生
711 赤穂義士の事を紀す(2)	312 米船ノ来航	501 齋藤実盛ノ討死	231 僧空海
714 本朝沿革の大略(1)	316 仮条約	504 いけづきと磨墨	210 藤原氏
715 本朝沿革の大略(2)	327 匹夫和歌を能くして賞を受く	507 轉越エ	211 藤原氏
716 本朝沿革の大略(3)	401 南北朝及足利織田豊臣時代(1)	509 元禄十六年ノ大地震	216 後三条天皇
717 本朝沿革の大略(4)	402 同上(2)	516 阿倍仲麻呂	302 中世ノ風俗
718 本朝沿革の大略(5)	403 同上(3)	607 千剣破ノ城攻メ 第一	303 中世ノ風俗
719 本朝沿革の大略(6)	409 桶狭間の合戦を記す	608 千剣破ノ城攻メ 第二	306 保元平治ノ乱
720 本朝沿革の大略(7)	415 小早川隆景明兵ヲ碧蹄駅ニ破ル	611 頼宣卿	307 古代ノ戦争
721 本朝沿革の大略(8)	421 蔚山ノ戦(上)	613 義仲ノ最後	308 古代ノ戦争
803 支那歴代の大略(1)	422 蔚山ノ戦(下)	615 家康信長ノ凶報ヲ聞キ時ノ事	312 鹿谷ノ軍評定
804 支那歴代の大略(2)	501 応仁ノ乱(上)	618 蜀ノ三傑	315 源頼政兵ヲ起ス
805 支那歴代の大略(3)	502 応仁ノ乱(下)	621 俊基卿ノ東下リ	316 渡辺競ノ話
806 支那歴代の大略(4)	512 鎌倉時代	703 加藤清正ノ軍功	321 源頼朝ノ伝
807 支那歴代の大略(5)	601 中古ノ時代(1)	704 新葉集ノ歌ガルタ	322 源頼朝ノ伝
809 後光明天皇の逸事	602 中古ノ時代(2)	705 なほれおんほなばると	323 頼朝ヲ論ズ
	603 中古ノ時代(3)	710 菊池氏	327 兵権武門ニ滯ス
	616 義経ノ機智	712 大塔宮ノ熊野落チ	328 鎌倉時代ノ概説
	701 上古ノ時代(1)	713 秀秋太閤ノ怒リニ遇フコト	329 鎌倉時代ノ概説
	702 上古ノ時代(2)	715 蘇武ニ答フル書	336 仲国勅使トシテ小督局ヲ訪フ
	820 梶原景時生田森二度のかけ	716 漢文ノ変遷	404 北条泰時ノ伝一
	821 宇野阿王恩ニ感ジテ僧ト為ル	801 小松大臣父ヲ諫メ給フトコ(1)	405 北条泰時ノ伝二
	825 後三条天皇	802 小松大臣父ヲ諫メ給フトコ(2)	411 北条時頼ノ行脚
	829 後醍醐天皇第九の皇子	803 小松大臣父ヲ諫メ給フトコ(3)	418 蒙古来寇
		804 藤房卿ヲ諫メ給フトコ	419 蒙古来
		808 和文ノ変遷 第一	424 大塔宮
		810 和文ノ変遷 第二	427 楠正成ノ忠戦
		812 和文ノ変遷 第三	430 北条氏ノ滅亡
		814 和文ノ変遷 第四	431 安東聖秀ノ義気
			433 楠正成ノ遺戒
			434 俊基閣東下向
			435 佐野天徳寺琵琶ヲ聞ク
			505 足利時代ノ概説一
			506 足利時代ノ概説二
			507 足利時代ノ概説三
			516 武人割拠
			517 詠史二首
			522 武田信玄
			527 上杉謙信
			528 詠史二首
			532 毛利元就
			603 織田豊臣時代ノ概説
			604 織田豊臣時代ノ概説
			605 織田豊臣時代ノ概説
			609 豊臣秀吉ノ伝
			610 豊臣秀吉ノ伝
			611 秀吉ヲ論ズ
			612 鞆鞋奴

		新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文 部 省 編	東 京 府 庁 編
歴 史					
理科	入門色	213 色		304 二郎のおもちゃ染めたる話一 305 二郎のおもちゃ染めたる話二	
	化学		423 気球 502 青き光の正体	608 火のゆくへ一 609 火のゆくへ二	423 小児の頓智
	金石	315 金 324 鉄 325 クロガネ	326 石炭 620 鉱物	510 おもなる金属 511 おもなる金属	610 鉄 715 石炭 816 銅
	植物	201 茶 214 木 216 野菜 307 海草 309 名ヲ解ケ 418 桐ノ話	317 稲 405 葡萄 518 花 618 植物の構造 707 稲 708 茶 714 小麦 715 玉蜀黍 801 甘薯	217 紙 306 米 406 麻 416 菊 424 ぼうし花 505 洗柿 513 しひたけ 620 ばんの木 624 砂糖 709 花 723 葉 725 根	329 竹 518 煙草 605 茶 704 砂糖 803 綿及び麻 812 甘藷 821 葡萄

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
			619 関原ノ戦 620 関原ノ戦 630 石田三成ノ伝 622 徳川家康ノ伝 623 徳川家康ノ伝 624 徳川家康ノ行状 634 林羅山ノ伝 702 徳川氏ノ政治 703 徳川氏ノ政治 705 耶蘇教ノ禁 708 徳川光圀ノ伝 711 熊沢蕃山ノ伝 714 徳川時代ノ風俗 715 徳川時代ノ風俗 716 新井白石ノ伝 717 洋学興隆 723 外国交通 724 外国交通 725 伊能忠敬ノ伝 726 伊能忠敬ノ伝 729 佐藤信淵ノ伝 732 明治時代文武ノ隆盛 734 近代ノ文明 735 近代ノ文明
420 野鳥誤て室に入る	203 感覚及外物 207 原因結果ノ連鎖 213 人工物, 天然物及万有 220 万有ノ秩序 225 万有法 228 理科ノ知識 310 有形物ノ普有スル性質	222 原色	
407 何をか瓦斯と謂ふ 418 何をか火と謂ふ 419 何をか火と謂ふ 其二 618 四大五行の説	520 エーテル熱ト光トヲ伝フ 610 水ノ分子 619 水銀ノ原子 705 化合及元素 707 酸素 710 水素 714 炭素及炭酸	215 酒	204 火ノ話 531 元素 720 万物ノ元素
413 金類の論 414 金類の論 其二	818 石炭坑ノ探訪		436 一塊の石
215 竹は木なりや草なりや 406 植物繁殖の理 435 砂糖の説(2) 513 漂流の民綿種を伝ふ 814 天下草木の概論(1) 815 天下草木の概論(2)	122 桃 419 梅を栽うる事 504 茶の話 516 珈琲の話 809 植物ノ成分 822 石炭ト成リタル植物(1) 823 石炭ト成リタル植物(2)	505 栗ト柿 117 菌 127 樹木ノ年齢	106 兄ノ親切 124 菜豆 136 茶ノ話 215 木綿 220 根ノ話 226 植物ノ増殖 230 葉ノ形状 234 奇妙ナ菌 305 植物ノ変化 314 植物ノ睡眠 324 花ノ形状 330 果実ノ話 417 油ノ種類 508 コルクノ話

	新保 磔次編	辻敬之／西村正三郎編	文 部 省 編	東 京 府 庁 編
生理	207 楽 411 皮膚 510 空気 602 胃と肺 612 新陳代謝、及ビ歯	504 水中の虫 604 呼吸(1) 605 呼吸(2) 610 皮膚 806 消化のしくみ	215 食物 315 正作病気になりし話	305 水と湯 306 丈夫になるには 425 薬を用ひぬ療治 507 運動は身体の薬 616 種痘 820 呼吸 822 歯の衛生
地文	226 水無シ 312 虹 313 空気 316 春季皇霊祭 614 雷 601 温泉	420 星 520 水の循環 601 雪 607 風の原因	320 四季 422 月の日数 601 太陽 721 雨及び雪	718 温泉
動物	205 鳥ト馬 209 豕 215 雁 220 虎 223 熊 301 蚕 311 雀 321 魚 402 潮 (地文／修身) 404 蜂 405 蟻 511 動物ノ功 512 猿ノ人真似 515 動物ノ身体 516 猫類ノ獸 603 海綿 604 毛虫 615 蛙ノ子ハ蛙ニナル	313 蝶 322 牛 401 猫 404 蟻 416 渡り鳥 506 魚 711 獅子 805 蚕 807 牛	208 かたつぶり 223 海岸のあそび2 303 かひこ 309 おきよと正雄との話 314 はりねずみ 318 馬 319 馬の童を助けし話 322 作太郎の鳩 329 燕 411 杜鵑 427 犬の智慧 512 正雄のあうむ 517 蠅 522 羊 524 樟虫 612 正雄とお清との問答一 613 正雄とお清との問答二 616 象 622 獅子 714 蟻 717 虎	308 蚕 414 象 506 犬賊を知る 517 養蚕 524 馬 603 獅子 607 沙漠の船 709 蝙蝠 711 啄木鳥 713 鯨 719 蜜蜂 808 牛羊豚 813 鶏
物理	319 返響 (修身) 513 吹き上げ 514 種種ノ器械	410 氷と風 501 蒸気船 611 物体の膨張と収縮	209 時計1 210 時計2 229 山びこ	404 水入の穴二つ 508 噴水 510 返響

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
119 水を飲むに心せよ 126 何をか五感と曰ふ(1) 127 何をか五感と曰ふ(2) 131 仙人に非れば必ず飲食す 201 日光足らざれば血色青し 217 胃を悪て手足労働せず 230 務て身体を動かさば終身病なし 236 骨は土質と膠質より成る 237 人骨二百四十八枚(1) 238 人骨二百四十八枚(2) 306 天下の名器 307 天下の名器 其二 514 人身洗浄せざれば各病を招ぐ 530 空気無ければ生物死す 531 華佗五禽の戯 819 養生の大意	720 烟草説 827 関節及骨ニ関スル衛生 830 食物消化ニ関スル衛生 223 瞳	210 身体ノ争ヒ 214 心臓 227 皮膚	137 手ノ働 232 ニツノ息 233 ニツノ息 334 食道及気管 422 通気 535 目ノ話 733 酒ヲ節スベシ
136 月には盈虚あり 137 月には盈虚あり 其二 422 肉眼観る所の星大凡六千 616 風は空気の流動より起る 725 蟹気楼の説 810 天体の説 628 潮流の理 801 龍果して有りや 812 天変奇事 820 雷電の説 821 古今地球構造の論(1) 822 古今地球構造の論(2)	208 珊瑚島 506 雨 517 太陽ノ大サ 523 温波 613 火山 622 流星ニヨリテ空気ノ高サヲ知ル 626 海陸風 718 塵埃の用	124 各地ノ気候 209 雷ヲ防グ事	111 一滴水ノ話 128 雲ト雨トノ話 406 気候ノ話 420 風ノ原因 421 風ノ原因 513 潮汐 525 日月ノ蝕 602 洋流 627 電光 628 フランクリンノ伝 635 太陽系 637 日射力及其事業 704 月ノ話 709 恒星ノ話 719 流星ノ話 731 彗星ノ話
212 魚に空を飛ぶ者あり 302 孔雀に脚力あり 312 兎の性情を説く 313 駱駝を沙漠の舟と謂ふ 319 鶯雀の歌 322 蝸牛の説 325 蜂房壯麗 410 羊の性情を論ず 416 吸皮の理 其二 423 象の性情を説く 428 蛙の性情を論ず(1) 429 蛙の性情を論ず(2) 432 鳥類体用の論 511 動物命数の論 521 蟻は信義を守り又戦を好む 602 獅子は百獣の王 723 蠅論 726 告天子の性情 813 猫の性情 816 栗鼠の性情 818 燕は春來り秋帰る	106 犬 302 鷹 314 鶴と鶉との説 315 扶老鳥 325 鶯 407 馴象 423 蟻ノ戦闘(1) 424 蟻ノ戦闘(2) 513 蛇 524 海狸 606 獸骨の用 608 蝶 615 奇異ノ爬虫 708 猫狗説 716 筏蜘蛛 727 奇ナル鳥巢 801 鰐 813 動物ノ成分	102 駱駝 105 象 106 犀 116 猪及ビ豚 118 運搬用ノ家畜 120 金魚 123 ひらめ 126 鯨 219 背骨 224 巢	121 鶏ノ話 127 犬ノ話 131 海中ノ花園 206 猫ノ話 212 虎ノ話 217 狼ノ話 223 象ノ話 224 象ノ話 304 獅子 310 鯨蠟 319 駱駝 326 鳥ノ話 331 駝鳥 409 鰐魚 414 海狸 432 動物ノ天性 514 蜂房
118 蒼舒巨象の重さを量る 221 罐中の水汽機の大用を開く 315 童子飛鳥を羨む(1)	125 時計の問答 304 凝聚力及物体ノ三状 305 童子夢ニ一滴ノ水球トナル	101 軽気球 111 がす灯 125 糸取り車	126 時計 209 氷ノ話 313 空気

	新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文 部 省 編	東 京 府 庁 編
物理	526 寒暖計 (生理) 507 時計 (生理)	616 音響・反響	712 空気	511 蒸気の力 512 氷の話 706 水
公 民	322 町, 村 501 政府 624 義心	703 会社・銀行・保険会社		311 請取 413 物事は手分がよし 513 手紙の往復 617 戸籍 624 政治 625 国民の二大義務 721 貨幣
実 業	208 炭 210 木綿 320 紙, 墨 401 瀬戸物 524 玉及び工業 (金石)	319 瓦 403 器物 511 陶器 609 織物の製法 713 工業		516 利の多きを択べ 609 瀬戸物 806 鹽 810 紙 819 漆器
家 政	225 味 305 名ヲ知ルカ 306 塩 308 海苔 314 洗濯 403 洗濯 412 鼻 414 別荘 415 衣, 食, 住 416 衣服ノ話 505 卵 506 養生 317 尺, 枡, 秤 420 火事	712 主婦の務め 305 家作り 702 よい住居 808 毛織 311 果物 517 食物の種類と養生 303 尺 312 枡 316 大の月小の月 325 織物 512 衣服		307 食物 406 夏冬の衣服 410 麩包と小麦と 411 衣服の洗濯 418 下女の自慢 814 鶏卵
手 紙 言 語	410 暇乞ヒ		323 作太郎の手紙 419 手紙の書き方 420 手紙の書き方	320 手紙

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
316 童子飛鳥を羨む(2) 411 水底の工事泳気鐘に依る 412 風櫃風を起す 415 吸皮の理 426 寒暖計の理(1) 427 寒暖計の理(2) 709 羅針盤の功用 811 熱論	313 重量重力及引力 320 権衡 324 物体ノ調度及比重 326 液体ノ圧力 404 運動量 410 動物の勢力 418 空気 425 水蒸気 508 水 511 霜及結晶 514 分子ノ振動 529 写真ノ理 604 水ノ構造 624 空気ノ重量ヲ測ル法	205 齒車 206 振り	317 水ノ作用 335 風船ノ話 415 寒暖計 426 泳気鐘 510 槓杆 515 吸子 526 ポンプ 533 瓦斯 607 熱 613 蒸気機関 614 スチブソンノ伝 615 スチブソンノ伝 626 電気 632 光線ノ屈折 636 理学上ノ昔話 707 顕微鏡 710 望遠鏡
130 人生各々職あり 231 金囊を託せば必ず証券を要す(1) 232 金囊を託せば必ず証券を要す(2) 233 金囊を託せば必ず証券を要す(3)	814 協力及分業ノ利益	302 高価ナル買ヒ物 303 業ヲ分ツ 304 互ノ便利 305 物ノ価 310 資本 313 交換 314 金銭 315 貨幣, 紙幣 409 天下太平家内安全 410 租税	501 貨幣ノ必要 502 貨幣ヲ論ズ 520 貨幣ノ商品タルベキ価格 521 貨幣鑄造 530 貨幣ハ勤勞ヲ交換スル媒介 606 資本 616 値ノ高低 629 職業ノ選択 701 天然ノ利源
318 西人陶器を發明す 326 玻璃の製方を紀す(1) 327 玻璃の製方を紀す(2) 401 童子食に就て一問を發す(1) 402 童子食に就て一問を發す(2) 403 童子食に就て一問を發す(3) 421 何を以て毛糸を製する 433 何をか護謨と謂ふ 434 砂糖の説(1)	126 舟人の生活 617 砂糖の話	201 田舎	114 木炭 116 商売及交易 219 砂糖ノ製造 320 陶器ノ製法 423 漆ノ話
	713 衣服の話	113 牛乳	
124 類似の字を誤ること勿れ(1) 125 類似の字を誤ること勿れ(2) 206 異体同字の弁 213 類似の字を誤ること勿れ 225 野蠻の民文字を見て魔術とす 506 同訓異義の字解(1)		809 情ヲ陳ブル表	

	新保磐次編	辻敬之／西村正三郎編	文部省編	東京府庁編
手紙 言語				
その他	説話	811 猿かに合戦	204 猿とかにとの話1 205 猿とかにとの話2 206 猿とかにとの話3 407 こぶ取1 408 こぶ取2 628 ろびんせん, くるうそうの昔話一 629 ろびんせん, くるうそうの昔話二 630 ろびんせん, くるうそうの昔話三	
生活 自然	224 鶏ト馬 303 名ヲアテヨ 304 弥次郎兵衛 318 雪ノウチニ 426 四時 529 春 620 花ノ王	310 白 314 玩具作り 315 男子の遊びと女子の遊び 320 独楽まわし 321 船遊び 329 元旦 413 花火 302 庭の花 308 四季 515 桜 809 四季	201 学校 203 妹の姉をしんせつにする話 207 人形の舟あそび 214 考へ物 218 小猫の話 222 海岸のあそび1 228 舟遊び 523 魚釣 202 咲け花よ 225 日の出 230 かすみか雲か 415 菊の歌 611 古戦場 710 春色	302 たこあげ 304 水車 313 砂遊び1
雑	206 画 211 遠キ道 212 三吉 217 猿 218 鶏ト狐 219 玉 421 珍シキ薬方書 422 見物 427 頓智 428 河村随軒 503 鼠ノ智 504 雀ノ智	617 音楽 種類と楽器 510 笛と箏 408 自転車 409 獣類の武器と人間の武器 503 兵器 505 酒 812 演劇	224 八町二郎の話 312 次郎と三郎との話 313 九年母の話 428 大坂の蛙と京都の蛙 413 考へ物 514 智慧の垣 402 時 414 書物の読み方 528 良秀の話	403 蛙の訓練 612 外国人我が国の画を愛す

内田嘉一編	池永厚／西村正三郎編	三宅米吉／新保磐次編	文部省 高等小学読本
507 同訓異義の字解(2) 604 和漢の語脈 607 同訓異義の字解 608 同訓異義の字解 其二 610 語勢同じからざれば同語も異なり 627 書師執筆を伝ふ 706 熟語の略解 707 熟語の略解 其二 712 梵語の釈義			
705 獅口を逃れて酒を禁す	211 戯曲・鸚鵡壳 226 ゲルトリユウデの話(上) 227 ゲルトリユウデの話(下) 311 二疋の蛙の話 426 ハッサン其家ヲ興シタル 所以(1) 427 ハッサン其家ヲ興シタル 所以(2) 428 ハッサン其家ヲ興シタル 所以(3) 703 狼の危難(上) 704 狼の危難(下) 712 毒ヲ以テ毒ヲ制ス 725 夫婦兄弟ノ奇遇(上) 726 夫婦兄弟ノ奇遇(下) 817 童区寄伝 819 遣唐使虎を殺す	112 利口ナル鼠 122 獅子 212 ろびんそん、くるうそおの日記ノ一 213 ろびんそん、くるうそおの日記ノ二 511 大江親兵衛猛虎ヲ撃ツ	
	218 夏の夕暮 416 風月の談話 417 四季の歌 505 隅田川の歌 519 欸乃村莊ノ記 521 旅行の楽 612 古戦場 711 暮秋搦衣 723 竹の歌 803 秋のくりこと 804 豊楽亭記 805 鶯 807 紅葉日記 811 惜落花 812 納涼の記	602 春日田舎ノ景 612 夏ノ楽シミ 706 夏日高樓ニ登リテ 805 桜花ノ歌 606 冬 717 立春	129 雲
227 童子湖辺に泳水を学ぶ(1) 228 童子湖辺に泳水を学ぶ(2) 509 兔鬼の説 603 気球空中を駕す 617 阿王の事を紀す 825 蒼蠅を憎む賦 704 線面諸名を講す	413 迷途	514 旅行ノ楽シミ 515 鐘小六夜箱根ヲ踰ユ 610 八幡ノ放生会 616 故郷へ帰ル 619 秋声ノ賦 620 蒼蠅ヲ憎ム賦 701 童遊ビ 702 京丸村 709 尾花才作末期ノ出仕 714 近衛府ヨリ衛門府ニ遷サル 806 常陸帯ノ序 811 前ノ赤壁ノ賦 813 後ノ赤壁ノ賦2	